



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

同友会理念を学び深め、21世紀を切り拓く企業づくりを ＝地域に根ざした人間尊重の企業づくりを＝

九州沖縄ブロック第5回支部長・支部活動研修交流会報告(2)

日 時：5月26日～27日

会 場：熊本全日空ホテルニュースカイ

報告テーマ：学んだこととそれをどう活かすか？

副代表理事 金井 政春

1日目の基調講演は「中小企業をとりまく情勢をどうつかむのか」～東日本大震災後の課題もふまえて～ 講師は慶応義塾大学 経済学部教授 植田浩史氏でした。

世界の動きとしては金、物、情報が国境を越え移動するスピードが益々速くなっている。

大企業だけでなく中小企業もいやおうなくグローバル競争に巻き込まれる。時代の流れ、変化の方向に注視して自社を中心にした情勢分析を語れること、書けること、使えることが必要とされる。又、世界の市場拡大をリードするBRICSや後発国に注目する必要がある。その様な中において日本は「産業発展のジレンマ」になっている。高品質、高機能商品の開発・生産・供給路線を確立してきた。その結果、後発国市場（低価格市場・ボリュームゾーン）への展開が遅れ参入できていない上に高品質・高機能商品の市場は縮小している。「産業構造の成熟化」した日本において新しい種を作り、次の世代を創り上げていくのは中小企業が中心とならなければならない。地域経済基盤、日本経済基盤の雇用、生活、地域経済、地域社会を支える立場にある。特に今回の震災のよ



うな危機的状況においてはさらに重要性を増す。個々の中小企業の置かれた状況、保有資源、戦略等を把握して産業構造の変化、市場の変化、地域の変化に対して自社のポジションの位置づけを明確にして、情勢を読み継続・発展する企業づくりに努める事が大切である。

やはりこの様な事が学べ、実践できるのは同友会しかない事を再認識させられました。

2日目は「中小企業振興基本条例づくりの事例に学ぶ」と題して昨日に続き植田先生に報告いただきました。中小企業の減少、雇用の場の減少、人口の減少という悪循環の中、自治体経営は困難となり、地方分権化の動きが進み今までの様な分配型経営では限界が感じられ、これからは創造型経営が必要と思われる。この様な危機感のもと地域産業の発展に重要な地位を占める中小企業の振

目次

九州沖縄ブロック第5回支部長・支部活動 研修交流会報告(2)	1
6月例会報告	4
新入会員・交代の皆さん	10

経営フォーラム実行委員会活動開始!	10
「ちょっと人口の話?」.....	10
8月例会案内	11
理事会議事録抜粋	12
会員消息・会員数	12

興が欠かせないとの思いから、振興基本条例作りが始まったようです。

地域の棚卸をして資産・資源・特徴等を発見し、行政・地元の他団体・住民を含めた数多くの会合を開きベクトルを合わせ、地域産業政策には何が必要か徹底的に議論する必要がある。そうする事により認識が共有され、互いの信頼感も生まれる。

地域の中小企業をめぐる経営環境悪化への対応として本来は自治体中心だったが自治体の意識が薄くなっている。よって例会等の同友会活動に自治体の方を呼び認識の共有を図る事が大切である。

地域振興基本条例制定が目的でなく、制定までの多くの他団体・行政・市民の方との意見交換により地域の発展について真剣に考えるその過程から多くの事が得られる。

同友会活動は自社にとっても、地域にとっても重要な位置にあることを改めて感じました。

副代表理事 内山 洋二

初日は「中小企業をとりまく情勢をどうつかむか」～東日本大震災後の課題もふまえて～と題し、講師に植田慶応義塾大学経済学部教授をお迎えし、講演を頂き、各テーブルに分かれグループ討論（テーマ：①今の情勢を踏まえて、どのように企業づくりに取り組むか。②①を踏まえ、例会づくりへの取り組み。③①を踏まえ、会員増強への取り組み。）を行った。

植田教授は、「中小企業家同友会は同友会の三つの目的を踏まえ、情勢を学び、世界・日本・地域の動きを捉えなくてはならない。失われた20年、ガラパゴス化、リーマンショック、それに続く先の震災。否応なしに企業に変革を迫っている。産業構造の成熟化（腐って朽ちていくか、新しい種を作り次世代を作り出していくか。中小企業にしか対応出来ないのではないか）。構造、市場、世界、市域が変化しようとしている。企業は自身のポジションをどこに置くかが、まず問われている。」と講演された。グループ討論では三つのテーマを無理して討論せず、企業づくりについてまず討論しました。10年前から次第に業態を転換し、業種から業態への脱皮を図っている。本業だけでなく業界を越え、会社の可能性を求めている。等の多くの意見を聞くことが出来ました。会員増強については増やすと同じように退会者も増える。

いわゆるスリープ会員に声を掛け、退会を助長したなど、よく聞く内容が他県でも同じようにあると思いました。皆の結論はやはり紹介者の最後まででのフォローと毎日々々の真面目で地味な活動という事になりました。

2日目も植田教授に「中小企業振興基本条例づくりの事例に学ぶ」～帯広中小企業振興基本条例づくり～と題しご講演頂き、「各県では振興条例づくりにどうとりくみますか」のテーマでグループ討論を行いました。植田教授の話では「中小企業振興基本条例は、其れだけで直ぐにどうこう成るのではなく理念条例であり、作ることが目的ではなくその過程でネットワークや仕組みづくり、アイディア検討のため、様々な主体（同友会を含む）による議論が重要。この条例は通過点であり、実際に出来てから何を行うのか、そのための仕組みづくりをどのように作っていくのかが大切で、条例は中小企業を活性化させていく起爆剤にはなるが、条例だけに過大に期待をかけるのは誤りです。」、帯広の例を引用し、「地域の危機意識と中小企業振興条例の重要性の考え方を地域で共有する。同友会で議論を始め、他団体そして行政へ戦略的に働きかけた。そして問題意識を地域で深め、地域活性化と中小企業の積極的対応を蓄積していく事。結果として、食品加工センターが出来、そして同友会企業の有名な北の屋台が出来た。また、鮭節、米粉の鯛焼、トーフくん等の多くが同友会企業から生まれた。そして中小企業振興条例の役割として、地域が総力上げて中小企業を応援していく構図が出来つつある（食品加工センター、金融機関、大学、行政等）。そして中小企業側も事業革新を蓄積し、それと地域資源がマッチし地域貢献が広がっている。また、更には信頼関係をベースに企業間の協業の輪が広がってきている。」と話された。グループ討論では「帯広の条例づくりに学び、各県、各地域ではどのように振興条例づくりを取り組みますか」と題し討論しました。

「まだまだ会員の中にはなぜ必要か、難しくて分からないと言う方も多い」「やはり帯広等の例でもある様に、少数精鋭で始めたほうが良い」「行政中心地では他の経済団体等の理解が進まない」「郡部から取り組んだ方が成立する可能性が良い」「議員さんをお願いすると自分の手柄にする事しか考えていない」等多くの意見が聞けました。私の感想として、会員には勉強会で情宣し、理解がある行政の方と共に、少数精鋭で取組んだ方がい

いような気がしてきました。しかし私を含め、会員の理解度がまず問題のようです。県や長崎市、新聞社などに積極的に働きかければ、時間はかかりますが、前進するのではないかと思います。

諫早支部 山田 康成

この研修会も4回目の参加です。毎回学ぶことが多く支部活動に取り入れていこうと思うのですがなかなか実践できません。

例会のやり方は各地区様々でまねをしようと試みるのですが、長続きしません。今回は継続的に実践できることを求めて参加しました。

1日目は慶応義塾大学の植田先生の講演でした。

「中小企業をとりまく状況をどうつかむのか」。グループ討論のテーマは企業づくり、例会づくり、会員増強をどうとりくむか、です。

企業づくりについては『社員の幸せを目指すいきいきと仕事出来る環境づくり』にまとまりました。例会づくりについては各地区での取組みが具体的に討論されました。福岡では座長を決めプレ例会をしてG長研修も必ず行う。報告者は会員で経営体験を基本にしている。他地区でもきっちりと準備をして例会テーマも決めている。出席率が向上する方法もいろいろ実施している。夜の例会でなく昼の例会を実施している。などの事例が報告されました。会員増強についてはいい例会ができれば会員も増える。新会員を増やすだけでなく休眠会員に対しても支部長が訪問したりグループを作り連絡を取り合ったりしている。例会が終わって3日以内に反省会を実施して出席したオブザーバーのフォローに何う。など様々な活動を学ぶことが出来ました。

どこも状況は一緒に増強には頭を痛めているが基本に返って同友会の素晴らしさを伝えていけば必ず成果は出るだろうと思いました。

グループ発表で諫早支部の会員を倍増して来年はこの研修会を卒業できるようにしたいと宣言しました。

佐世保支部 尾崎 彰宣

今回、植田先生の話を受けて、我々のグループでは、情勢の認識を重点的に討議しました。IT化・グローバル化の中で商売の仕組みが変わったことは言うまでもありませんが、またそのことにより社員の気質・行動にも変化があり、昔ながらのトップダウン的な経営体質ではもはや人は動かないという声がグループ内から聞こえてきました。よってまずはしっかりした経営理念を構築し、社員のモチベーションをいかに上げるかが自分の会社が浮上する鍵となると感じました。しかし、そのためにはまずは、自分自身が情熱と確固たる信念を持つことが重要だと考えます。そして、社員と認識を共有し、共に語り合い、社員からの新たな提案が次から次にされるような社内風土を作って行きたいと考えます。

中小企業振興条例に関しては、今回の植田先生のお話は非常に具体例が多く、条例制定によりどう中小企業の経営環境が変わっていくのかが、よく理解できました。残念ながら長崎県は、他の県よりも動きがかなり遅れているとも感じます。まずは、会員の意識を高めるためのセミナーを何回でも開催すべきだと思います。セミナーの要点として①中小企業振興条例とは何か？②なぜ必要なのか？③なぜ同友会なのか？④この運動によりどう変わるのか？というところを、基本から具体的な事例をあげて説明し、グループ討議には必ず専門的な知識を持っている方を2名ほど各グループに配置し、知識のない会員をフォローすべきだと考えます。そこまでやらないと、現状の会員の知識では、討論はすすまないどころか、何も感じないままだと思います。まずは、自分自身がこのことをより勉強し、会員の意識付けのお役に立ち、支部長とともに佐世保市に対する何らかのアクションをおこして行きたいと考えます。

レンタル一筋四十年

無料で ロゴ社名入りマットを製作

☆空気清浄機 ☆キャビネットタオル ☆ハンドドライア

☆浄水器 ☆アルカリ整水器 ☆各種モップ

☆玄関マット ☆エレベータマット

(有)ダスキン栄進

電話 095-823-7633

Fax 095-823-7656

おかげさまで創業32周年

有限会社 プライアント 保険

Tel : 0956-28-2425 <http://www.pliant.jp>

□本店 佐世保市日野町70-4

□日野支店 佐世保市日野町1828-49 2F

□来店型ほけんショップ 佐世保市日野町1828-49 1F

同友会事務局 山田 幸司

私は、この変化が激しい現代社会だからこそ、情勢認識、また、情勢分析がいかに重要なのかを学びました。

今回の震災で、なぜトヨタの工場がストップしたのか？それは、エンジンに使われるネジは岩手の企業で作られていたからですが、トヨタ自身がそれを知らなかったという事に私は驚きました。

モノ・情報・金の流れが複雑になっているからこそ、その流れをしっかりと理解しなければならないということです。

そのためには、まず自社を中心とした情勢分析を行う必要があります。どういった所と関わっているのか？そして、その分析したことを語れること、指針書に書くこと、使えることが大事だということです。

地域との関わりについて見てみると、その地域に中小企業が多い＝経営者が多い。ということは「真剣に地域の未来を考えている人が多い」ということで、このことは、今後の日本経済のあり方にとって非常にプラスです。改めて、同友会の存在意義の高まり・重要性を痛感しました。

憲章・条例に関しては、各県、また同じ県内で

も取り組みに非常に温度差がありました。

確かに長崎同友会もまだまだですが、確実に前進していることは間違いありません。更なる前進をめざし、事務局としても取り組みを強化して参ります。

たいへん驚いた事例を挙げます。同じグループの熊本同友会の役員の方でしたが、県総会の委任状を企業訪問して100%徴収しているそうです。もちろん参加促進がメインなのですが、顔を合わせることで状況を把握。どうしても欠席の場合は、会の帰属意識を高めるためにその場で委任状を受け取るそうです。恥ずかしながら、100%委任状徴収ということは私も考えたことはありませんでした。その方は「顔の見える会づくり」を心掛けているとのことで、また、「地域経済の担い手である我々が、地域の未来について本気で語り合い、動くからこそ環境を変えることができる。」と熱く語られていました。

今後、事務局としても的確に情勢を分析し、会員各位のニーズの把握を怠ることなく、地域経済発展のために業務に邁進しなければと決意致しました。

県南ブロック例会報告

日 時	6月23日 (木) 午後6時30分
会 場	水辺の公園レストラン
内 容	慶祝例会

梅雨入りして蒸し暑い日々が続く中、県南ブロック6月慶祝例会が水辺の公園レストランで開催されました。

当日は、慶祝者12名の内8名の方が参加され、長崎浦上支部・長崎出島支部の60名の会員から祝福を受けました。

長崎浦上支部の池田例会委員長の司会で例会が開会し、西山会員のスローガン唱和の後、還暦を迎えられた内山ブロック長より、伊勢宮で清祓いを済ませ、これからは歳を重ねるにつれてお祝いが続くので長生きは良いことであり、百歳になるまで生きて長崎の未来を見てみたいと挨拶されました。

5月に入局され、本日の受付も担当していただいた新事務局員の野口久美子さんからの自己紹介後、慶祝者の皆さんから「私の履歴書」と題して、

同友会との関わりを中心に全員に報告していただきました。短くご紹介します。



<傘寿>末次 眞さん（長崎浦上支部）

1935年生まれ。内装工事業をしています。取引先の勧めで入会。「同友会の手引」を3回読んで関心がある箇所に赤線を引くようにとアドバイスされた。従業員はパートナーという言葉に惹か



れた。同友会は会員の意見を尊重する会であり、初心を忘れないように心がけています。

<古稀>品川廣記さん（長崎出島支部）

今日は伊勢宮でお祝いしていただきました。30年の会歴になります。NTTに就職してから起業しました。一生懸命役員も務めました。今も残っているのは同友会が良いからです。

<古稀>福富勝忠さん（長崎浦上支部）

昭和11年の佐賀県生まれです。長崎に来て50数年。グループディスカッションが苦手ですが、仲間づくりができて良かったです。今日はがんばらんば国体の会合から駆けつけました。柔道を続けて今7段です。あと3年ぐらいで8段に挑戦したいと思います。

<還暦>内山洋二さん（長崎浦上支部）

私はまだ11年目です。同友会には社長になってすぐ入会しました。何をしていたかわからず、義兄の加悦さんに勧められました。コンピューターに触れたのも同友会に入ってからです。同友会ではずっと勉強してきました。全国の情報に触れ、6年前に別会社も作りました。同友会の情報を有効に使って10年後も残ります。

<還暦>木村 操さん（長崎浦上支部）

今日は暑かったです。暖房と冷房が社名の由来で「ダンレイ」です。父が創業して70年経ちました。同友会に入会して25年になりますが、7/2の新会員フォローアップセミナーで経営指針を作ってどう変わったかを報告します。

<還暦>中村優次さん（長崎出島支部）

茂木で米屋をしています。今日はお祝いしていただきありがとうございます。休みがちでしたが、これからは積極的に参加します。

<厄入>川口圭典さん（長崎浦上支部）

時津で建設資材を扱っています。永池さんの勧めでオブザーバー参加して入会しました。真剣なディスカッションに興味がありました。少し休みがちな時に、京都の全研に行って分科会で刺激を受け、例会に参加するようになりました。青年経営者会にも入り、若い仲間も増えて、経営フォーラム実行委員長も務めさせていただきました。

<厄入>横山伸司さん（長崎出島支部）

ピザクルサのフランチャイズをしています。2年前に井の中の蛙にならないようにとアドバイスされて入会しました。驚いたのはグループディスカッションの真剣さでした。社長・店長・事務の3役をやりながら、これからも参加続けますのでよろしくお願いします。

慶祝者皆さんの報告終了後、司会を中村勝志さんに交替して、慶祝懇親会が始まりました。盛大な拍手とカメラのフラッシュの中、各支部長から慶祝者のみなさんにお祝いを授与。出口長崎浦上支部長より、還暦の意味や傘寿は二度目の成人式という話があり、濱田長崎出島支部長の乾杯で各テーブルで歓談が始まりました。

同友会らしさは、テーブルで事業継承の悩みや新商品開発の相談、増強のためのアイデアなどが終了予定時間が過ぎても続いていたことでしょう。締めは辻村さんによる万歳三唱と参加された皆さんの笑顔でした。

（文責 長崎浦上支部 福元 充）



慶祝対象者の皆さん おめでとうございます



皆さんで万歳三唱

大村支部例会報告

日 時	6月16日(木) 午後7時
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	「会社とお客様を守れ！」 ～経営者は業務全般の管理者～
報 告 者	株双葉建設 代表取締役 益田 智行 会員

例年より早い梅雨入りで長雨が続き、当日も類にもれずシトシと強弱を繰り返しながらの雨模様にもかかわらず、会場には多くの会員の皆様と数名のオブザーバーの方が出席されました。



今回は、新たに仲間入りされた、藤田製茶の藤田正和会員にバッジが贈呈されました。共に頑張って勉強していきましょう！

今月は支部の益田会員に「会社とお客様を守れ！～経営者は業務全般の管理者～」と題して報告いただきました。報告に際しての資料として、会社やご自身・ご家族それぞれの成り立ちや、現在に至るまでの経緯などを同じ時間軸に並べて年表にした物をご用意されていました。それを基に話を進めていただきましたので、非常に聞きやすく、また各年代毎にそれぞれがどういう状況だったのかが理解しやすかったです。また、報告の中では、お客様とのトラブル・事故等の事にも触れ、企業としても個人としても本来は他人には話したくないであろう内容も、今回はお話いただきました。私のように、家業で極端に少人数の会社では考え難い事でしたが、経営者



として顧客や社員の管理、関わり方の大切さ、難しさを考えさせられました。そして、今日に至るまでには色々な

出来事があったのだなと感じる人も少なくなかったのではないのでしょうか。

私自身も、長くお付き合いをさせていただいておりますが、やはり知っているようで知らない事が沢山あるのだと改めて思いました。このような話が聞ける事も、同友会という会ならではの魅力ではないかと思えます。貴重なお話を、ありがとうございました。

続いてグループディスカッションでは「今の仕事は好きですか？」という、ちょっとドキッとするようなテーマでしたが、あまり難しくないストレートなテーマだったこともあってか、非常に活発に意見が出ていたように思います。「好きか、そうでないか」という2択で言えば、必ずしも好きでやっている人ばかりではないという事。また、創業者と後継者でも感じ方が違う事も少し目の当たりにできました。中には、「好き嫌い以前に仕事が趣味」という、趣味と実益を兼ねた素晴らしく羨ましい方もいらっしゃいました。究極の理想だと思います。

今回、1テーブルの人数が多かったこともあり、ディスカッションの時間がやや足りなかったように思いますが、全体的に色々なお話が聞けて充実した例会でした。

(文責 伊東 広純)

佐世保支部例会報告

日 時	6月18日(土) 午後7時
会 場	佐世保市民会館
テ ー マ	仕事に活かすパソコン術
報 告 者	System and Tool Solution ネットワーク研究会 代表 永末 勝宏 会員

座長制例会の第2回目の今月は、永末会員による「仕事に活かすパソコン術」という報告でした。永末さんは、年齢も若く創業間もないということで、同社のPRもかねて、これまでの経歴で学んだことよりも、「現在やっていること、会員の業務に活用できるヒントになる」ことに重点をおいて報告いただきました。

永末氏は、佐世保生まれの佐世保育ち。パソ

コンに触れたのは小学生の頃だが、学生時代は、特に夢中になることもなく、大学時代に実験データの整理のために使っ



ていた程度であった。卒業後専門学校で本格的に学び、ジャパネットたかたでパソコン操作の電話対応等の業務に就いた。母校である専門学校から、講師の話が来たので、同社を辞め、10年ほど講師を務めたが、生徒数減少による廃科となって、学校を辞職。これまでの経験を生かして起業することを決意、2010年9月にSTSO L

(System & Tool Solution ネットワーク研究会)を立ち上げた。業務内容は、①ホームページの作成、②ヘルプデスク（パソコンのあらゆる相談に応じる）～ヘルプデスクについては、時刻を問わず出張指導可能。

次いで、ホームページの作成事例として、佐世保支部会員である「千北司法事務所」「(有)カワカミ」「佐世保地区障がい者就労支援協議会」(原田会員)と北松浦支部の「(有)荒木水産」の4社を実際に画面を見せながら、それぞれの特徴が解説されました。

さらに、仕事に生かすパソコン術として、①メールの活用 メールソフトのフィルタリング機能を使って、社内外とのコミュニケーションのみならず、自身の備忘録としても使っている事例。アドインソフトを使って、メンバーのスケジュールを共有している方法を紹介したほか、今後普及



が進む「クラウドコンピューティング」についても簡単な説明をされました。

終了後のグループ討

議では、各社のIT活用の状況の情報交換がなされ、質問も多岐にわたりました。「今までは、若手の社員任せにして遠ざけていたが、やはり、自分で触らなければならないこと、かつ、それが出来そうなのがわかった」という感想が多く聞かれ、今後e-d o y uの活用も広がりそうです。

(文責 吉原 英令)

諫早支部例会報告

日 時	6月16日(木) 午後7時
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	「地域の蔵元として」 ～伝統と革新～
報 告 者	株杵の川 代表取締役 瀬頭 信介 会員



今回は、支部会員である株杵の川瀬頭信介会員に報告していただきました。杵の川は1980年に長崎県内4つ

の酒造メーカーが合併・統合されてできた企業です。その中でも一番歴史が古い会社で1839年創業、黎明さんで1908年創業と、それぞれ地域に生まれ、信用とこだわりの味を守ってきた各酒造メーカーが一つの会社になるには、我々に語りつくせない苦労があったのではないかと思います。

瀬頭会員は、黎明酒造から数えて4代目。後を継ぐ意志が明確にあったわけではなかった26歳の時、先代より広島県西条市にある酒類総合研究所に行くことを命じられ、その2年間の体験と、その後八女にある清酒繁耕で有名な高橋商店での修行が、その後の後継者としての社員の皆さんへの接し方、酒造り対する考え方などを構築した大事な期間となり、酒造りに人生を賭ける大転換期

になったということです。

清酒の需要は、昭和48年をピークに平成20年は3分の1に、国税



収入に対する割合も45%からわずか4%まで落ち込んでいるということです。人口減少、さらに若者の清酒離れ、酒販売免許に対する規制緩和など、瀬頭会員が後継者になると決心するにはあまりにも環境が悪かったのではないかと思います。

「伝統の味から流行の味へと変化せざるを得なかった。」このことが酒造メーカーの後継者としては一番辛かったでしょう。伝統の味を変えることは、これまで杵の川を愛してくれたお客様を裏切ることにもなります。しかし4代目として出した結論は、「お客様が求めるおいしいお酒は、時代と共に変化する」です。社長が目指すタイプの蔵元に社員を連れて行き、おいしいと言われるお酒を買ってきては社員と利き酒を行う。社内一体となつての本当に生き残りを賭けた商品開発が始まりました。お米にこだわり、いろいろなシーンや階層のお客さんに飲んでいただくために、多品種少量生産となり、その結果製造コストが上昇してしまうなど、新たな経営問題点も発生しましたが、販促費を削り良質の原材料費へと回す、おいしい酒の還元性を科学的に構築する。女性に愛されるお酒作りのために、女性の営業を採用するなど、理想とする酒造メーカーに向かって1歩ずつ、

着実に前進しておられます。何よりも新しい販路を開拓するため「お客様はどこでお酒を買うのか」を命題にファンづくりに奮闘しておられます。

今回の報告で、後継者が後継者となり得るプロセスが明確になったと思います。先ず、先代の事業に興味を持つ機会が訪れる。次に多くの体験を行うことにより、実践という形の中で、社会変化への対応のための変革目標が明確になっていく。最後に社長となって社員と共にその変革目標を一

つずつ実行していく。その結果が経営者と言われる姿に近づくことになります。

会員それぞれ業種は違いますが、この社会大変換期、立ち向かっていかなければならないことは同じではないでしょうか。素晴らしい例会になったことを申し添えます。

(文責 永江 正澄)

島原支部例会報告

日 時	6月16日(木) 午後7時
会 場	ホテル南風楼
テ ー マ	「お役に立つ為に」 若いリーダーが目指す新しい経営
報 告 者	(株)本多商会やすらぎ会館 代表取締役社長 本多 純平 会員



今回は、本多純平会員に「お役に立つ為」をテーマに本多会員の生い立ち、取り組まれていること、人材育成を中

心に報告頂きました。

本多氏は帰省後21～2歳の若さで自ら経営理念を掲げられたそうです。そこから自身が最前線に立ち、現場で一生懸命働き、業種上、年中無休24時間体制で社員への負担が大きい仕事なので、少しでも負担を軽減させようと一番多い時で月の半分は当直していたそうです。また、経営者として数字も見なくてはならないとのことで経営計画も作成したことのことで。

人材育成では、朝礼で他の社員のいいところを挙げていくことを実施されています。そのことにより、ひとの悪いところではなく良いところを探すようになり、それが見つかるとう助け合いの心が



芽生え、みんなが元気になるとのことでした。また、的を得た意見が出てくるようになるそうです。

月6時間社員に勉強してもらおう。テーマ、時間、場所は自由。しかし、最後にレポートを提出してもらい個々の向上を図っているそうです。

社員教育で一番大切なことは指導後、社員を信じて待つこととおっしゃっていました。私はこの言葉が一番印象に残り納得させられました。

改善がないと焦り、すぐにでも改善を求めると思うのですが、社員を信じて改善してもらおうのを待つというのは、より深い信頼関係につながるのではないかと思います。

報告後のグループディスカッションもオブザーバーも含め、熱いディスカッションが行われていました。この度は大変有意義な勉強をさせて頂きました。

貴重なお話を聞かせて頂き、誠にありがとうございました。

(文責 山口 武啓)

ホームページリニューアル!!

情報広報委員会

たいへんお待たせしました。
6月30日にホームページがリニューアルしました。
ぜひ、ご覧ください。
バナー広告・協賛もお待ちしております。



北松浦支部例会報告

日 時	6月15日(水) 午後7時
会 場	松浦シティホテル
テ ー マ	「我社の経営方針」
報 告 者	㈱スタイルマート 代表取締役 堤 直司 会員



今回の例会はまず県立佐世保高等技術専門校校長 笹原哲夫氏から学校の教育方針を初め仕事に対する心構えなど、日頃生徒に対し話し聞かせていることを

熱く語っていただきました。

その後、我社の経営方針と言うテーマで㈱スタイルマート代表取締役 堤直司会員に報告していただきました。

- ・昭和30年創業者の堤亨により家具の町大川にて家具製造・販売を始める
- ・昭和35年北松浦郡江迎町に大川や家具店を開店
- ・昭和38年佐世保市上京町に移転・店名を筑後屋家具店に改める
- ・昭和52年大野店オープン
- ・昭和62年で家業に入る

入社当時いろんな事業を手がけられ最初は失敗の連続だったそうです。しかし平成元年、家具流通21世紀の会(現在㈱アステック)に入会され、共同仕入・共同企画・物流システムなど船井総研から経営指導を受け自分たちでチラシ作りや仕入れを行うようになったそうです。その他商圏人口に合わせた在庫管理、無駄な在庫を持たない事を徹底され、その結果、業績をグングン上げられています。MD戦略も縦軸横軸に書き出していただき大変分かりやすかったです。

現在は㈱アステックでも副社長を務められグ

ループ内で経営指導など若手育成にも力を注がれているそうです。

商品の陳列や組み立て方を緻密に計算されていてすべてにおいて数字で判断されていました。しかし売れ筋ばかりを揃えるのではなく多くの客層に支持されるような店舗作りを目指されていました。

印象に残っているのが競合店のあるところにか出店しないと言われた事です。競合店の集まる場所は立地も良く、また比べる店がないと自社の商品の良さが伝わらないと言われていました。これは、自分に絶対の自信がないと出来ないことです。それを可能にするだけの実力があると私は思います。

社員教育の面では個別にヒアリングをしたりモチベーションを上げるための努力を絶えずされているのが伝わってきました。店舗改装のタイミングも一年前倒しする等、経営判断の早さを感じました。リニューアルして店舗も社員の気持ちも新しいスタートを切れたそうです。

最後に前向きに会社を小さくすることも大事だと言われていました。

これは常に前向きにいろんなことに挑戦してこられた堤さんの実体験にもとづいた考えでとても共感できました。無理に規模を拡大するのではなく、時代や業界の流れ、経験などを考慮したのではないのでしょうか？勇気のいることだと思います。

グループディスカッションでは(我社の経営戦略)と言うテーマで各委員会ごとに分かれて議論されました。一番多かった感想はとても勉強熱心な方だという意見でした。

その他、堤さんの躍進の原動力はやはり経営計画書である。経営計画書にもとづいて軸がぶれない経営をされている。など時間いっぱいまで様々な意見が飛び出しました。事業継承においてはいい人材がいれば自然と受け継がれていくという補足がありました。

今回の例会はオブザーバーの方も多く大変活気に満ちた例会でした。

(文責 荒木 大輔)

青年経営者会例会報告

日 時	6月25日(土) 午後7時
会 場	割烹 こじま
内 容	慶祝例会

台風が迫っていた6月末、その台風を吹き飛ばすかのように青年経営者会の慶祝例会を盛大且つ厳粛に行いました。今年の厄入りは平和建材店代表者 川口圭典さんです。西村会長の挨拶後、川口さんの挨拶と続き、ささやかながらの記念品贈呈、池田会員の乾杯で祝宴へと入りました。その中で出席頂いた皆さんにお祝いのメッセージを頂きました。1人1人、川口さんに思いを込めて語ってもらいました。今年川口さんは経営フォーラムの実行委員長の大役を担っています。また、青年経営者会も1つの分科会を担当します。

皆のメッセージの中には、川口さんの人柄に対



するものと共に、フォーラム成功へ向けての川口さんへの励まし、協力などが多く含まれていました。そして盛り上がってきたところで橋本さんによる生ギターでの歌のプレゼント。さだまさしの「雨やどり」から始まり長渕の「とんぼ」の熱唱。傍らで号泣する川口さん。まるで清原の引退試合でのワンシーンの様でした。最後に秋月さんの万歳でお開きとなり、川口さんの性格を表す様な温かい例会となりました。

川口さん、仕事、同友会と忙しい1年となりますが体に気をつけて頑張ってください!!

(文責 西村 浩文)

(敬称略)

< 会 員 交 代 >



8 月例会案内

●長崎浦上支部

日 時 8月22日(月) 午後6時30分
会 場 ギャラリーヘキサ
テ ー マ 「例会で何を学ぶのか？」
＜中同協 第43回定時総会（北海道）
参加報告＞
～中小企業の総力を結集し、日本再生に
挑もう～

報 告 者 コム・ジャパン 代表者
中村 勝志 会員

7月5日～6日にかけて開催された第
43回定時総会の参加報告をしていた
きます。定時総会に参加して、“持ち帰
ってきたモノ”、“私”を見つめ直したコト”、
“私”のこれからを考えたコト”を報告
していただきます。

10月に迫った経営フォーラムの参加促
進もいたします。厳しい残暑が続いてい
ます、扇子、団扇はどしどしお使い下さり、
涼しいクールビズにてご参加ください。

●長崎出島支部

日 時 8月24日(水) 午後6時30分
会 場 サンプリエール
テ ー マ 『私にとっての同友会とは？』
～あらゆる関わりの中で、常に思考し
ビジネスチャンスを創る～

報 告 者 (株)リンク 代表取締役
島崎 和紀 会員(長崎浦上支部)

「常に思考回路を働かせ、自らの能力を最
大限に生かし、クリエイティブ企業とし
て社会に貢献する。」という理念のもと、
デザインや広告をはじめテレビCMや番
組の制作、長崎の観光企画など幅広く活
動している島崎氏のこれまでの歴史を
語っていただきます。

●諫早支部

日 時 8月18日(木) 午後7時
会 場 諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ 同友会と私

報 告 者 (株)広告のアクセス 代表取締役
山領 進 会員(佐世保支部)

「同友会を知る会」開催にあたり、佐世保
支部での会員増強の活動経緯を山領氏に
報告していただきます。第2部は、山田
事務局長に新入会員さん向けにオリエン
テーションを兼ねた報告をしていただき
ます。



●島原支部

日 時 8月18日(木) 午後7時
会 場 ホテル南風楼
テ ー マ 皆で語ろう「バズセッション」
報 告 者 参加者全員

バズセッションとは能力開発の一種で小
分科会に分かれて、それぞれの分科会で
ブレインストーミングを実施して、その
結果を全体会議に持ち寄る会議手法です。
テーマは「我が社の生き残り戦略」現在
の悩みや問題点をどう打破していくのか、
この機会に皆に話してみてもと思います。
お酒を片手に皆で本音で語り合いましょ
う。

●大村支部

日 時 8月18日(木) 午後6時30分
会 場 長崎インターナショナルホテル
ビアガーデン
内 容 「納涼家族交流例会」

毎年恒例の「納涼家族交流例会」。今年は
「いかにご家族に楽しんでいただけるかを
テーマにし、出来るだけ多くの奥様やお
子様に参加いただきたいと思います。

●県北ブロック

日 時 8月27日(土) 午後3時30分
会 場 万松楼
テ ー マ 同友会で学んで我が社は蘇った。
～経営指針は会社の命綱～
報 告 者 (株)シティーライン 代表取締役
田浦 通 氏(福岡同友会代表理事)

田浦氏は、納品代行の専門会社として
1983年(株)シティーラインを創業し、
多事多難な道のりの中で同友会と出会い、
経営指針作りに着手されました。経営指
針発表会を開催するようになってから会
社は大きく変貌し、着実に業務拡大をさ
れています。現在2000名を越す福岡
同友会の代表理事として活躍中の田浦氏
に、同友会の真髓について報告していただ
きます。

●青年経営者会

日 時 8月27日(土)
会 場 オーシャンパレス リゾート
内 容 サマーイベント

今年も恒例のサマーイベントを開催しま
す。
会員のご家族と親睦を深めたいと思っ
ています。多数のご参加をお待ちしており
ます。

仲間づくりについて

- 1) 入会・退会の承認依頼についてー入会6名、退会9名を承認
- 2) 仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について

報告・連絡事項

- 1) 6月 県本部・各ブロック・各支部・各委員会等の活動状況について
- 2) 例会について（更なる例会の充実をめざして）ー中村例会委員長
・各支部例会づくりも軌道に乗って来た様です。
・大村支部の70%を超える出席率に敬意を表します。
- 3) 組織検討委員会開催（6月29日）報告と今後の活動について
ー山田事務局長
＜当日の主な次第＞
1、委員会開催趣旨説明
2、各項目（ビジョン・ブロック制・経営フォーラム）の現状認識と今後の検討方法について

- 初回ということもあり、まずは意見交換を行いました、そのほとんどの時間「ブロック制」について終始しました。同友会を良くしたいというベクトルは皆さん同じということを感じました。
- 4) 中同協関係の件
①主要行事の紹介と参加促進
②中同協 第43回 定時総会 参加報告ー参加者全員
「中小企業憲章制定1周年、中小企業家の総力を結集して、日本再生に挑もう」
(参加者 ひとり一言。別途提出頂いた報告（7月11日締切）は広報誌に掲載。」「総会宣言」にじっくり目を通して下さい。
- 5) 県議会 「経済雇用・災害対策 特別委員会」（8月4日・木）
『参考人招致』対応について
（「地域振興条例」に関しての詳細な説明要請）ー宮田支部長
開催時間は未定。こちらへの依頼人数も未定。
松尾代表、町田政策委員長、大村支部・富永政策委員長（今回の窓口）他で対応予定。
・実際の取り組みについて話して下さい。とのこと。

協議・承認事項

- 1) 経営フォーラムについてー川口実行委員長

- ①概要承認の件（今回、新規提案分（確定分）を承認）ー承認
テーマ「今こそ、つながろう同友会」
～私たちには、すごいチカラがある～
開催日 10月28日（金）
会 場 長崎ロイヤルチェスターホテル
参加費 7,000円
規 模 180名
記念講演 ㈱イドム 代表取締役 小出 宗昭氏

- 分科会 第1 「経営指針」
(資) 若竹屋酒造場 林田 浩暢氏（福岡同友会）
(担当・長崎浦上支部)
- 第2 「経営戦略」
フラッシュ㈱ 古里 学氏（長崎出島支部）
(担当・長崎出島支部)

- 第3 「事業承継」
(株) 紀之国屋 中村 大志氏（福岡同友会）
(担当・青年経営者会)

※実行委員会に、各ブロック・支部への目標の提出を依頼。

- ②当日タイムスケジュール案 承認の件ー承認

- ③予算案 承認の件ー承認
フォーラムノートへの広告協賛よろしくお願いします。

- ④その他
実行委員会に、来月理事会までにチラシ（ゲラ刷り）の提出を依頼。

- 2) 「経営革新セミナー」（8月26日（金）・福地茂雄氏特別講演会）
予算措置申請（協賛願ひ）についてー船橋委員長
協賛 ならびに協賛金15万円の拠出 を承認。
8月26日（金） 長崎新聞 文化ホール アストピア
13:30～15:30 参加費 無料
多くの皆様のご参加 お待ちしております。会員拡大にも積極的に活用して下さい。
- 3) 組織検討委員会より修正承認のお願いー松田相談役
※経営フォーラムに関しては、「10月までには結論を出す方向」と先月理事会で述べましたが、他の案件（ビジョン・ブロック制）ともすべて絡んでいるので、今回は、ベナントを代表理事に返還させて頂き、共に12月まで検討期間を頂きたい。ー承認

会員消息

●住所変更

土井 幸喜 会員（長崎出島支部 ㈱ドゥアイネット）
〒852-8135 長崎市千歳町21番6号
※住所のみ変更、他は変更なし

田中 清和 会員（佐世保支部 特定非営利活動法人だるま会）
新住所：〒857-1165 佐世保市大和町952-8
電 話：0956-59-9130
FAX：0956-59-9131

●会社名・役職変更

山田 康成 会員（諫早支部）
旧社名：㈱ソニックジャパン→新社名：㈱ソニック
旧役職：長崎支店長→新役職：取締役支店長

会 員 数（7月8日現在）

	目 標	期 首	現 在
長 崎 浦 上	100	84	86
長 崎 出 島	100	84	85
県 南	200	168	171
大 村	50	38	42
諫 早	80	40	42
島 原	40	31	30
県 央	170	109	114
佐 世 保	100	69	69
北 松 浦	40	31	29
県 北	140	100	98
合 計	510	377	383

広告募集

< 4cm × 9cm >

複数月 割 引	6ヶ月	12,000→10,000
	4ヶ月	8,000→7,000
	3ヶ月	6,000→5,000